

普及現地情報

発信年月日:令和 8 年(2026年)10月14日
所 属 名:東近江農産普及課
番 号:D26012
発 信 者 名:田中豊、寺園、北条、安居、白井



緑肥を活用した新たな土地利用体系の提案！

9 月 7 日、水田の地力向上を目指し新たな土地利用体系の取り組みの提案をするため、夏緑肥の栽培実証の見学会を開催しました。緑肥栽培に興味のある生産者と関係機関の 31 名の参加がありました。

近年の温暖化などの気候変動や、麦・大豆などを組み入れた田畑転換により、水田の地力は低下傾向にあります。このため、水稻・麦・大豆の収量・品質が低下することが課題となっています。

そこで、東近江地域の水田農業の地域プロデュース計画では、収益性の高い生産モデルの確立のための検討を行っています。今回、土壌有機物量の改善や地力向上を目的として、夏緑肥「ソルガム」「クロタリヤ」「ミレット」の3草種、10 品種の実証を JA と連携し行っています。

当日は、緑肥のすき込み作業の見学と当課から地力向上の必要性和実証内容を説明し、種苗メーカーから各品種の特徴を紹介していただきました。

参加した生産者からは、「ぜひ緑肥を取り入れてみたい」「多くの種類を比較でき、興味が湧いた」と前向きな声が聞かれました。

当課では、緑肥を用いた輪作体系の構築により土づくりが進み、水田の地力が向上し、西日本で一番儲かる水田農業の実現に向けて、関係機関と連携し取り組んでいきます。



研修会の様子